



一人一人の便利をカタチにする

株式会社EVジャパン



知的資産経営
報告書

2014年

1 代表からのご挨拶

EVジャパンは、2011年2月に大阪・京都の自動車整備工場等8社が集まり、設立した会社です。

地域社会の活性化や環境にやさしい社会の実現を目指し、下記の事業テーマに取り組んできました。

- ガソリンスタンド不足の農村地域に対して、既存の軽トラックを電気自動車へコンバージョンする事業に取り組んでまいりました。
- ガソリン車の分解整備技術とEV関連技術を活用して、自動車整備事業者のネットワーク構築に取り組んでいます。
- 二酸化炭素排出削減などの問題解決に向けて、国土交通省は超小型モビリティを制度化し平成25年1月より導入しました。当社でも、今まで培ったEVコンバージョン技術を活かしコストパフォーマンスのある超小型EVトラックを製作しています。

このたび、EVジャパンの取り組みを広く知っていただくために、知的資産経営報告書を作成いたしました。

これからも自社のEV技術を活かして、地域社会の活性化や環境にやさしい社会づくりに貢献していきたいと考えています。



2014年3月

株式会社EVジャパン

代表取締役 西田長太郎

(株式会社エヌシーオート)

2 事業内容

EVジャパンは、電気自動車・電気式輸送機器（Electric Vehicle）、および関連機器の開発、製作、販売を行っている会社です。現在、主力の製品分野は、超小型EV、構内専用EV、EV周辺機器、電源設備、EVコンバージョンの5種類です。

また、EVのさらなる可能性の追求のために、MMU（Multi Purpose Unit）装置開発、超小型モビリティ開発にも取り組んでいます。

1 超小型EV



農家・農園、工場、漁港等で使用可能な一人乗りのEVです。プレートを取りつけて、公道で使用することが可能です。また、散水等、使用目的に合わせて、オーダーメイドでの製作も可能です。

EV：Electric Vehicle（電気自動車・電動輸送機器）

2 構内専用EV

テーマパークや学校など構内で使用するEVです。使用目的に合わせて、オーダーメイドで製作しています。有名テーマパークへの納入実績があります。



3 EV周辺機器

超小型EVや構内専用EVに取り付け可能な各種機器を提供しています。
・学校のグラウンド用整備機器
・農園の獣害対策機器
などがあります。

4 移動電源設備

屋外で利用可能な移動電源を提供しています。
EV車の大容量電源を災害時の非常時電源として活用できるほか、屋台、キャンプ等でも使用が可能です。

5 EVコンバージョン



現在使用中の軽自動車をEV車に改造します。
すでに30台のコンバージョン実績があります。

6 MMU装置

大阪大学との産学連携で、EVの電源を利用可能な震災避難のための各種機器を開発しています。ポンプ、避難用リフト、照明、充電器等があり、実証実験を推進中です。



MMU：Moving Multi Purpose Unit（自走式多目的機器）

7 超小型モビリティ

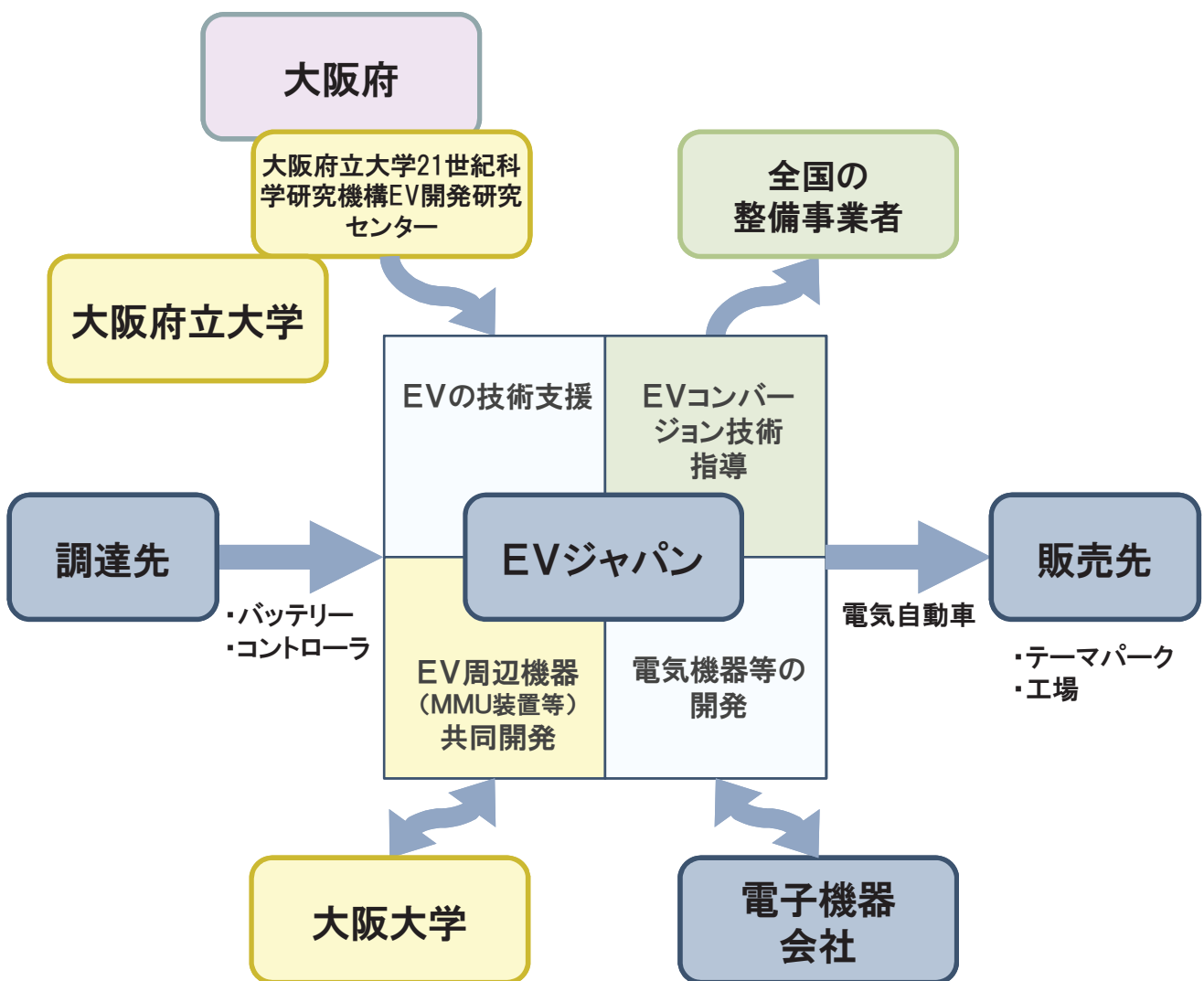
国土交通省の超小型モビリティ実証実験への参画を計画中です。

3 ビジネスフロー

EVジャパンが、電気自動車・電気式輸送機器（Electric Vehicle）、および関連機器の開発、製作、販売を行うに際して、多くの社外ネットワークを活用しています。

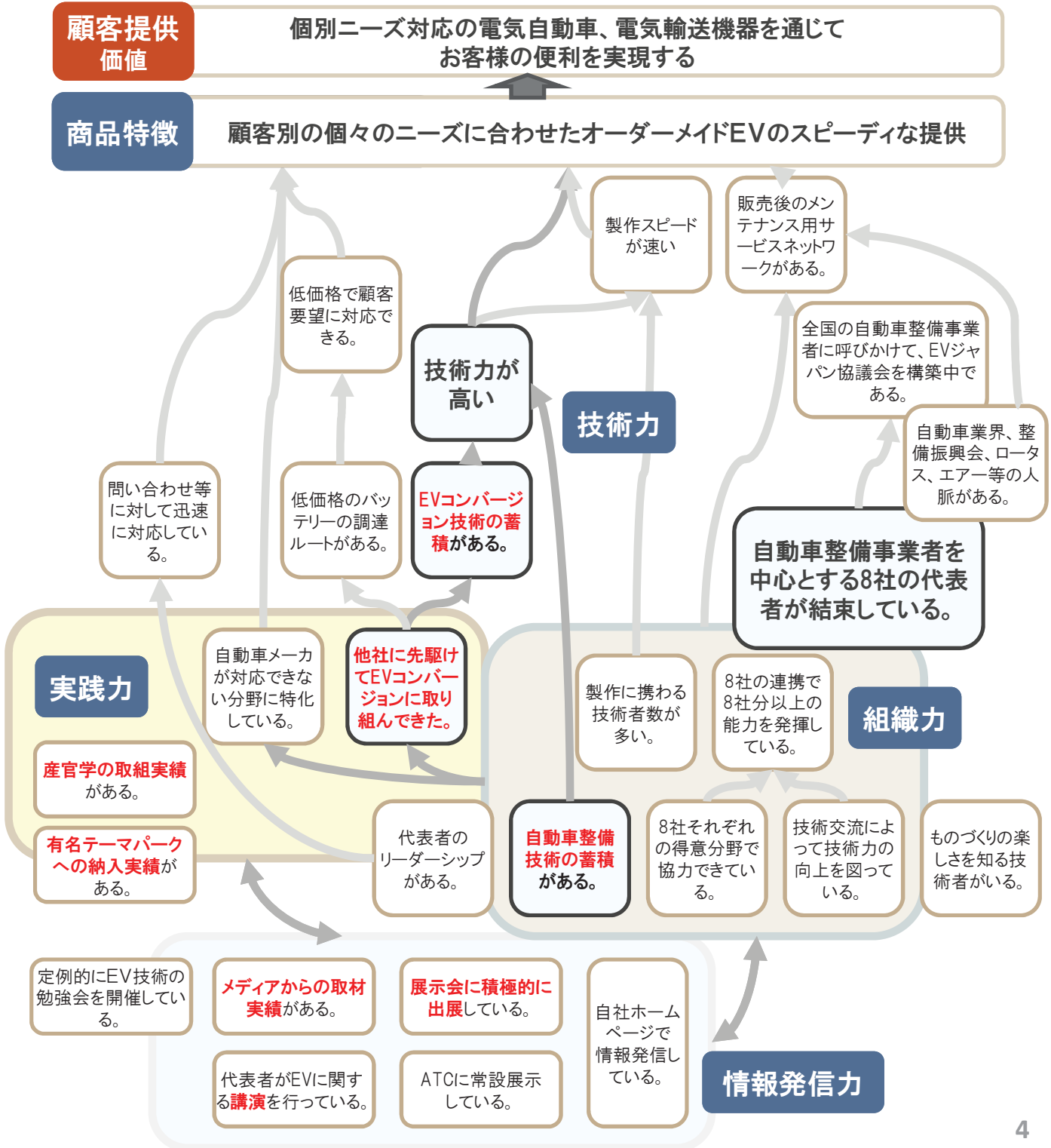
大阪府、大阪府立大学、大阪府立大学21世紀科学研究機構EV開発研究センターからは技術支援を受けています。大阪大学とは共同研究、電子機器等の開発については、社外の電子機器会社と連携しています

そうした取り組みによって製作した電気自動車等を販売しているほか、全国の整備事業者に対して、EVコンバージョンの技術指導を行っています。



4 価値創造プロセス

EVジャパンには、長年行ってきた自動車整備事業やEVコンバージョンへの取り組みを通じて培った技術の蓄積があります。EVジャパンは、「お客様の便利をカタチにする」をコンセプトに、この技術力を活かし、電気自動車・電気輸送機器を通じて、お客様の便利を実現しています。



5 技術力 - 自動車整備技術の蓄積

EVジャパンは、大阪・京都の自動車整備工場等8社が集まり、設立した会社です。
自動車整備事業に長年取り組んできましたので、自動車整備技術には自信があります。EVジャパンの電気自動車製造技術は、自動車整備技術の蓄積の上に成り立っています。

各役員の所属企業の 営業年数

株式会社エヌシーオート	53年
近藤自動車工業株式会社	40年
昭光自動車株式会社	37年
松下自動車	25年
戸田自動車工業	33年
株式会社森下商会	62年
株式会社ワイズ	13年
株式会社イズミ総合	3年

各役員の所属企業の 技術者人数

自動車整備士	23名
国家3級整備士	10名
国家2級整備士	13名
自動車検査員	9名
車体整備士	7名

関連の全国自動車整備 ネットワーク

全日本ロータス同友会	1,600店舗
AIR オートクラブ	3,600店舗
BSサミット事業協同組合	500店舗
自動車整備振興会	47店舗



▲ 技術者の層の厚さがEVジャパンの活動を支えています。

5 技術力 - EVコンバージョン技術の蓄積

EVジャパンは、他社に先駆けて、EVコンバージョンに取り組んできました。
また、EVコンバージョンに取り組むだけでなく、取り組みによって得たノウハウを技術研修会を通じて、全国の自動車整備事業者に広める活動を行っています。

実績

● EVコンバージョンの作業登録実績

- ・スズキキャリトトラック 10台
- ・スズキキャリトトラック4WD 3台
- ・スズキエブリイバン 3台
- ・スズキアルトバン 1台
- ・ダイハツハイゼットトラック 2台
- ・ダイハツハイゼットバン 2台
- ・ダイハツリーザ 1台
- ・ダイハツムーヴ 2台
- ・ホンダ 1台

● コンバージョン技術研修会

- ・大阪府整備振興会 60名参加
- ・京都整備振興会 50名参加
- ・大阪ATC 60名参加

● EVジャパン協議会技術研修会

毎月1回、第二土曜日に技術研修会を定例開催しています。

EVジャパン協議会とは：
EVの普及を推進するための自動車整備・車体事業者のネットワーク。EV技術の普及を推進中です。



▲ 超小型EVトラックの組み立て作業をしています。



▲ 役員の所属企業の社員向けに技術研修会を実施しています。

◀ EVコンバージョンキット見本です。技術研修会で使用しているものです。

6 実践力 - 産官学の取組実績

E V ジャパンは、大阪大学や大阪府立大学とともに、E V や関連機器開発に取り組んでいます。

大阪大学との取り組み

大阪大学との共同で、MMU 装置を開発し、特許出願中です。

具体的な装置内容としては、

- 災害時高所への避難リフト
- E V 車活用大電源移動装置
- 災害時に池などの水を活用する為E V を活用し汲み上げポンプを使う装置

があります。

E V と関連装置を災害時に役立つ道具としたいという趣旨で取り組んでいます。



▲ 大阪大学と共同で実施した実証実験の様子

大阪府立大学との取り組み

大阪府立大学と共同で、「障害者用バリアフリー車椅子ダイレクト乗車装置」を開発し、特許出願中です。

開発した車両は、障害者が介護者のアシストなしで、ドライバー席の横に電動ボタンで移動できるというものです。

障害者が車椅子のまま、ドライバーの横に位置することで、ドライバーが走行中に、介護者への気配りをしながら、運転できるようにとの趣旨で開発いたしました。

E V 技術を活かして、さまざまな人の幅広いニーズに応えたいと考えています。



▲ 共同開発した「障害者用バリアフリー車椅子ダイレクト乗車装置」

EVコントローラーの製作

上記以外にも、大学等と連携したE V コントローラーの製作など多くの取り組みを行っています。

6 実践力 - 有名テーマパークへの納入実績

EVジャパンは、自由度の高いプラットフォームを活用して、顧客の仕様で製作するオーダーメイドEVを製作しています。主な実績は以下の通りです。

2013
年4月

2013年4月、大阪の有名テーマパークに食品移動販売用のEV車を2台を納入しました。

環境面への配慮が求められていることから、お客様が環境に配慮した車両を要望されていたことがその背景にあります。

また、お客様の仕様に合わせて製作できることが評価につながり、発注いただきました。



▲ 大阪の有名テーマパークに納入した食品の移動販売用EV車



▲ ハウステンボスに試験導入した散水ができるEVトラック

2013
年7月

2013年7月、ハウステンボスに散水車を試験導入し、静音性について高い評価を得ています。

この試験導入で、EVの特徴を高く評価していただいたことから、本格導入に向けて、現在、デザイン学校に対して、デザインを募集中です。

本格導入は2014年中の見込みです。

2014
年2月

2014年2月には、遊園地、住宅展示場等で遊覧用に使用するロードレイン(EV)を受注・製作しました。



▲ 遊園地や住宅展示場で使用するEVロードレイン

7 組織力 – 役員の結束力



環境省、国土交通省が目指す低炭素社会を考え、EVがどのように使用されているのか、また、どのようなEV車を作れば、お客様に喜んでいただけるのか、いろいろと取り組みをしてまいりました。

今後は、小型EV車に特化し、安全、安心なお車、お客様のニーズに合ったお車を提供していきたいと考えています。

取締役 仲辻 茂樹（株式会社イズミ総合）



EVジャパンは、広域関西圏で、地域社会や環境保全に貢献する、安心・安全な小型EV自動車の開発・製作・販売・保守管理に取り組んでいます。

全国の自動車・車体整備業の皆様とともに、EV事業の全国ネットワークを構築したいと考えています。大きな潮目を感じましょう！！

取締役 近藤 英男（近藤自動車工業株式会社）



長年、自動車業に携わってきました。その中で培った技術を活かし、これからの社会の主役であるEV自動車に取り組んでいます。

今後は、お客様のご要望に合わせて、さらに高度な、時代が要求するものづくりに取り組んでいきたいと考えています。

取締役 松下 司（松下自動車）

7 組織力 – 役員 of 結束力



EVジャパンは、西田長太郎社長を筆頭に、開拓者精神のあるメンバー、個性ある企業の集まりです。

EVとは何だろう？

それはエンジン（Engine）を外したクルマだと考えました。

わがEVジャパンは、良い（E）方向を目指して、3本の矢ならぬ、8本の矢で、結束力の組織を活かし、チャレンジ精神を忘れず、大手では成し得ない、小回りの利く開発力、行動力を活かし、地球環境に優しい企業を目指します。

取締役 戸田 英範（戸田自動車工業）



当社は創業以来、常にお客様から信頼される良き企業でありたいと考え、自動車を通じて豊かな社会づくりを目指してまいりました。

21世紀においても自動車が環境に優しい、人類にとって有益な乗り物であるように願い、電気自動車に取り組んでいます。

取締役 森下 辰彦（株式会社森下商会）



EV事業は、単純にガソリン車が電気自動車に代わるというのではなく、生活レベルを向上させる、また生活を豊かにする新たなものだと考えています。

修理工場の持っている技術を活かして、EVジャパンのメンバーと共にこの市場を広げる一役を担うことを楽しみに思っています。

EVジャパンの組織では、行動力のある敬愛なる諸先輩方の便利屋となり得るよう庶務雑用業務に努めています。

取締役 山倉 一夫（昭光自動車株式会社）

7 組織力 – 役員の結束力



EVジャパンは将来を見つめ、明るく楽しく活動している夢のある会社です。

EV車はガソリンスタンドのない地域では魅力もあり、地域のイメージに貢献もすると期待しています。

私の役割としては、地域に密着したEV車を研究、開発していきたいと考えています。

取締役 橋本 哲郎（株式会社ワイズ）



▲ 想いを同じくする役員の結束力がEVジャパンの強みです。

8 情報発信力 - メディアからの取材実績①



- NHKおはよう関西「元気な中小企業」でEVジャパンのコンバートEVと普及に向けた取り組みが取り上げられました。
2012年3月19日 午前7時50分放送



- 朝日テレビ「キャスト」でEVジャパンの超小型電気トラックと大阪モーターショーでの出展の様子が取り上げられました。 2013年12月20日 午後4時50分放送



1人乗りEVトラック

E.V. ジャパン 農家や遊園地向け



関西の自動車整備会社... 8社が共同で設立したE.V. ジャパン... 農家や遊園地向け... 一人乗りの電気自動車(EV)トラックの写真

関西の自動車整備会社... 8社が共同で設立したE.V. ジャパン... 農家や遊園地向け... 一人乗りの電気自動車(EV)トラックの写真を掲載し、現在主流のカワサキ車のトラックより利便性が高いとみている。7月中旬に発売する。最高時速は15キロ。鉛バッテリーを搭載し4〜5時間間の充電で30キロ走れる。価格は標準仕様で49万8千円(税別)。初年度1ユー...

要も見込む。要望に応じた外装にすることもでき「全国のパークから引き合いが来ている」(西田社長)という。現在は原動機付き四輪車として一人乗りで走行できる。7月に実証実験をし、国土交通省が1月に導入した超小型車の制度に基づいて一人乗りの認定を取得する計画だ。

- 日本経済新聞(2013年6月17日付)で「一人乗りEVトラック EVジャパン 農家や遊園地向け」として、EVジャパンのEVトラック販売が紹介されました。→

2013年(平成25年)10月18日(金曜日)

EVジャパン 車載技術 災害用に転用

ニプロン 電源システム 生産10倍



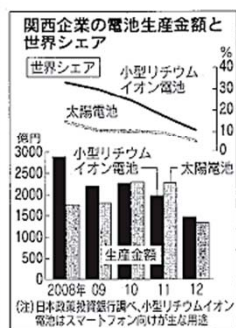
ニプロン社では製品の検査が行われている

関西の中小企業の間で電池産業を強化する動きが強まっている。電気自動車(EV)に搭載するリチウムイオン電池やスマートハウス(次世代省エネ住宅)に使う太陽電池の周辺機器の増産に向け、設備増強や新製品開発に乗り出すところが多い。地元自治体も優遇措置の導入を進めており、今後、普及が見込めるEV、スマートハウスの周辺分野で、収益強化を狙う企業が増えている。

関西の中小電池に力

自動車整備率を上げるEVジャパン(大阪府豊中市)は、大阪府が電池事業強化のために創設した「新エネルギー産業創出事業補助金」を受け、約1000万円を受け、車載用リチウムイオン電池の開発設備を整えた。近く生産を開始する。同社はリチウムイオン電池の電圧をコントロールする仕組みも開発し、

EVや住宅... 周辺分野を開拓



大阪大学と共同でEVに積む電池を災害時の避難用リフトの電源などの使えるよう製品化し、市販化予定の取り組みが紹介されました。

関西イノベーション特区」

大阪、京都、兵庫の3府県と京都府の3政令指定都市が進める「関西イノベーション特区」では、電池関連産業の国際競争力の強化を目標とする。自治体は特区への進出企業を対等に優遇策の導入を進めている。大阪府はリチウムイオン電池などを出せば地方税を減免する制度を導入済み。他の自治体も補助金の支給など、具体的な検討中だ。

電池産業 支援厚く 国際競争力を強化

本目標の一つに掲げる。3府県は、2025年をメドに同特区でのリチウムイオン電池の生産金額を現在の16倍の3兆8500億円、太陽電池を5倍の1兆1300億円に増やす計画だ。目標達成に向け、自治体は特区への進出企業を対等に優遇策の導入を進めている。大阪府はリチウムイオン電池などを出せば地方税を減免する制度を導入済み。他の自治体も補助金の支給など、具体的な検討中だ。

- 日本経済新聞(2013年10月18日付)「関西の中小 電池に力」という記事の中で、「EVジャパン 車載技術 災害用に転用」として、EVジャパンの

- 車載用リチウムイオン電池の開発設備導入と生産開始
- リチウムイオン電池の電圧をコントロールする仕組みを開発
- 大阪大学と共同でEVに積む電池を災害時の避難用リフトの電源などの使えるよう製品化し、市販化予定

の取り組みが紹介されました。

8 情報発信力 - 展示会への出展実績

EVジャパンは、各種展示会への出展や講演を通じて、電気自動車・電気輸送機器の普及と啓蒙に努めています。

2011年

- 第2回エコ整備フォーラム2011（フジサンケイビジネスアイ、日刊自動車新聞）
- 名古屋次世代モビリティ博覧会2011
- 産産学ビジネスマッチングフェア2011 with 大阪大学（豊中商工会議所）
- 全国EVサミット in しずおか（静岡県、財団法人しずおか産業創造機構）

2012年

- 京都自動車整備振興会コンバートEV説明会（京都自動車整備振興会）
- 大阪府EV新ビジネスへの挑戦（大阪府、大阪府立大学21世紀科学研究機構EV開発研究センター）
- 第3回エコ整備フォーラム2012（フジサンケイビジネスアイ、日刊自動車新聞）
- EV入門セミナー（大阪自動車整備振興会）

2013年

- 第5回EV. HEV駆動システム技術展
- 中小企業・ベンチャー企業が開発した超小型EV・大阪産EVの展示会（大阪府、大阪府立大学21世紀科学研究機構EV開発研究センター）
- 中小企業総合展2013 in kansai（独立行政法人中小企業基盤整備機構）
- 第8回けいはんなビジネスメッセ（公益財団法人関西文化学術研究都市推進機構）
- EV常設展示の開設（EV組立施設）（大阪府）
- 第3回高石市津波避難訓練（高石市総務部危機管理課）
- 産業フェア in 善光寺 2013（（公財）長野県中小企業振興センター）
- 塩尻発マイクロEV分科会（塩尻市 経済事業部 商工課）
- ふるさと産直みほん市2013（農民運動全国連合会）
- <ナント>元気企業マッチングフェア2013（（株）南都銀行、（一財）南都経済研究所）
- 大阪産EVづくりの研修バスツアー（福井県環境推進会議）
- 第4回エコ整備フォーラム2013（フジサンケイビジネスアイ、日刊自動車新聞）
- 第8回大阪モーターショー（実行委員会：自販連、日本自動車輸入組合、読売新聞、日刊自動車新聞、テレビ大阪）
- ビジネス・エンカレッジ・フェア2013（池田泉州ホールディングス・池田泉州銀行）



▲第8回大阪モーターショーでの出展ブース（右）、商品説明の様子（左）

9

外部環境をふまえた今後の方向性

EVジャパンは、自社の外部環境（事業機会と事業リスク）に対する以下の認識のもとに、今後の方向性については、当面は超小型EVトラックを重点取組分野と考えています。

事業機会

社会・市場動向

- 経済産業省が超小型EVに着目している。
- 観光地向けで超小型EVのニーズが高い。
- 高齢化社会の進展によって、超小型車の需要増が期待できる。
- 環境への関心の高まりから、EVは今後も需要が増加すると考えられる。
- EVコンバージョン事業から競合他社が撤退している。

需要動向

- 超小型EVへの問い合わせや引合いが多く、関心が高まっている。
- メディアからの取材など、EVジャパンの活動が注目されている。

事業リスク

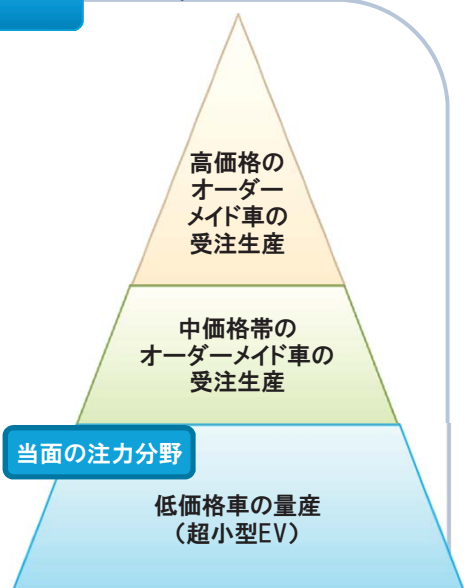
- メディアでの露出によって、注目され、模倣されるリスクがある。
- 大手メーカーが価格を下げてきたときに競争力が失われるリスクがある。

今後の方向性

- 注目され、引き合いが多い事業機会を捉えるため、短期的には、超小型EVに注力する。
- その体制づくりとして、各役員の所属企業への技術移転をさらに推進し、体制の増強とEV技術の平準化に取り組む。
- また、基本的なプラットフォームの製造ラインを確立し、リードタイムとコストの低減に取り組む。
- 上記取り組みにより、品質とコスト競争力の両方をもって、模倣されない競争優位性を構築していく。



▲ 超小型EVトラック



▲ EVジャパンの製品戦略

10 将来に向けての価値創造ストーリー

EVジャパンには、「一人一人の便利をカタチにする」という価値創造のコンセプトがあります。当面は、超小型EVトラックに注力し、超小型トラックを通じて、お客様に快適さや仕事のしやすさ等の価値をご提供することがEVジャパンのミッションであると考えています。

顧客提供価値

農業、漁業等に従事される方に対して、一人一人の便利をカタチにする電気自動車のご提供を通じ、作業環境の大幅改善と、快適に長く働ける作業環境をご提供する。



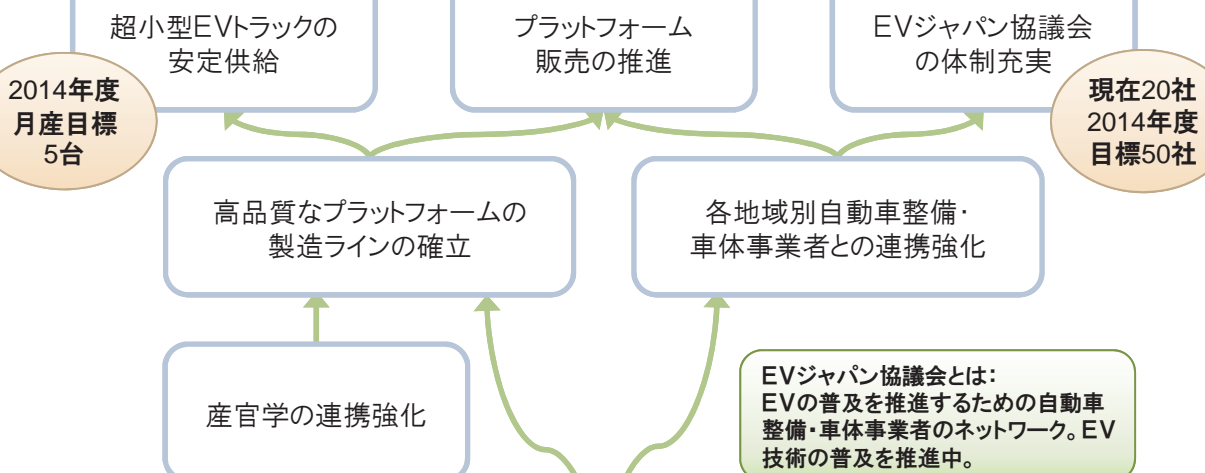
【 電気自動車の特性 】

- CO2ゼロのため、ハウス内等密閉空間での作業に最適。
- 夜間作業に移動電源を提供可（サーチライトなど）。
- すぐれた静音性により、快適な作業環境を実現。

事業領域

EV製造メーカーとして、販売店を通じて、多様なニーズに応える使い勝手の良い超小型EVトラックを全国に提供していく。

重点取組項目



今後の方針

短期的には、ニーズの高い超小型EVトラックの普及に注力する。

11 会社概要

- 会社名 : 株式会社E V ジャパン
- 代表者 : 代表取締役 西田 長太郎
- 設立 : 2011年2月
- 資本金 : 1,000万円
- 所在地 : 大阪府豊中市上津島1-10-32
- URL : <http://www.ev-jpn.com/>
- 電話 : 06-6866-2828
- FAX : 06-6866-2824

沿革

E V ジャパンの設立以来3年間の歩みです。

「一人一人の便利をカタチにする」をコンセプトに、お客様のニーズに合ったE Vの開発、提供を行っています。

2011年

- 2月 大阪府豊中市にて8社共同出資で会社を設立する。
- 5月 EVコンバージョンKキットの開発を完成する。
- 7月 E V ジャパン協議会のメンバー企業の募集を開始する。

2012年

- 8月 国土交通省の新ガイドラインによる近畿圏初のE V改造ナンバーを取得する。
- 10月 E V オーダーメイド事業を開始する。
- 12月 テーマパーク用E Vの開発を開始する。

2013年

- 7月 超小型モビリティ規格に準じた超小型E Vトラックの販売を開始する。
- 9月 A T C (アジア太平洋トレードセンター)にてE Vの常設展示場を開設する。
- 11月 移動用電源装置を開発する。

12 役員一覧(構成企業)

代表取締役	西田 長太郎	(株式会社エヌシーオート)
取締役	仲辻 茂樹	(株式会社イズミ総合)
取締役	近藤 英男	(近藤自動車工業株式会社)
取締役	松下 司	(松下自動車)
取締役	戸田 英範	(戸田自動車工業)
取締役	森下 辰彦	(株式会社森下商会)
取締役	山倉 一夫	(昭光自動車株式会社)
取締役	橋本 哲郎	(株式会社ワイズ)

